



2019年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2018年11月14日

上場会社名 株式会社ライドオンエクスプレスホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 6082 URL <http://www.rideonexpresshd.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 江見 朗
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長 (氏名) 渡邊 一正 (TEL) (03)5444-3611
 四半期報告書提出予定日 2018年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第2四半期の連結業績(2018年4月1日~2018年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第2四半期	9,416	10.3	310	5.5	376	32.8	228	39.0
2018年3月期第2四半期	8,536	3.1	293	△34.2	283	△34.6	164	△33.1

(注) 包括利益 2019年3月期第2四半期 65百万円(△84.3%) 2018年3月期第2四半期 421百万円(77.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第2四半期	21.75	21.15
2018年3月期第2四半期	15.74	15.31

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第2四半期	9,143	4,831	52.8
2018年3月期	10,055	5,060	50.3

(参考) 自己資本 2019年3月期第2四半期 4,829百万円 2018年3月期 5,058百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2019年3月期	—	0.00	—	—	—
2019年3月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の連結業績予想(2018年4月1日~2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,912	4.0	1,012	0.9	1,116	15.7	706	31.9	67.12

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年3月期2Q	10,554,000株	2018年3月期	10,522,800株
② 期末自己株式数	2019年3月期2Q	124,988株	2018年3月期	64株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2019年3月期2Q	10,501,890株	2018年3月期2Q	10,441,069株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についての注意)

本資料における予測値及び将来の見通しに関する記述は、当社が現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいております。その判断や仮定に内在する不確実性及び事業運営や内外の状況変化により、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なる可能性があり、当社は将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。

(日付の表示方法の変更)

「2019年3月期第1四半期決算短信」より日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュフロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2018年4月1日～2018年9月30日)における我が国経済は通商問題の動向や海外経済の先行き、金融資本市場の変動による影響が懸念されるものの、政府の経済対策や日本銀行の金融政策を背景に、企業収益や雇用・所得環境の改善が続くなど、景気は緩やかに回復しております。

当社グループの属する宅配食市場におきましても、高齢化社会の進展、女性の社会進出、小規模世帯の増加、インターネット注文の普及等により、今後も堅調に推移すると考えられます。

このような状況の下、当社グループは「ご家庭での生活を『もっと美味しく、もっと便利に』」を実現するために、オンデマンド(お客様の要求に応じて即時にサービスを提供する)でのサービス提供を軸とした「オンデマンドプラットフォーム」の構築に向けた事業活動に取り組んでまいりました。

当第2四半期連結累計期間においては、WEBからの注文比率向上に向けた販売促進の強化、顧客接点の強化・利便性の向上に向けたシステム投資、持株会社体制に即した管理体制の構築を進めていること等により、販売費及び一般管理費は前年同四半期と比べ増加いたしました。また、宅配寿司「銀のさら」の売上の好調等により売上高は増加している為、営業利益は前年同四半期と比べ増加いたしました。

また、当社の連結子会社であるライドオン・エースタート1号投資事業有限責任組合が保有する株式の一部を売却したこと等により、経常利益は前年同四半期と比べ増加いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の業績は売上高9,416百万円(前年同四半期比10.3%増)、営業利益310百万円(前年同四半期比5.5%増)、経常利益376百万円(前年同四半期比32.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益228百万円(前年同四半期比39.0%増)となりました。

主な活動状況は以下のとおりです。

①店舗・拠点

FCを含むチェーン全体の店舗数においては、宅配御膳「釜寅」を4店舗(直営店)、提携レストランの宅配代行サービス「ファインダイン」を6店舗(直営店)出店し、宅配寿司「銀のさら」1店舗(FC店)、宅配御膳「釜寅」1店舗(FC店)、宅配寿司「すし上等!」2店舗(FC店)を閉店いたしました。また、直営とFCの区分が変更されたことにより、直営店は「銀のさら」3店舗、「釜寅」3店舗、「すし上等!」1店舗の純増となっております。

これにより当第2四半期連結会計期間末における店舗数は741店舗(直営店270店舗、FC店471店舗)、拠点数は370拠点(直営店104拠点、FC店266拠点)となりました(※)。

※当社グループのチェーンでは、商品を宅配するための事業所を全国に配置しており、これを「拠点」と呼んでおります。また、消費者に提供するメニューの種類ごとに設置される設備(宅配寿司「銀のさら」や宅配御膳「釜寅」等)、及び「ファインダイン」における消費者が選ぶことのできる提携レストランのラインナップ(メニュー)毎の配送機能を「店舗」と呼び、一つの「拠点」に複数の「店舗」を設置することがあります。

②各ブランドの状況

商品戦略としましては、期間限定商品として、宅配寿司「銀のさら」では、人気の高い「大生エビ」、「トロサーモン」を使用した商品のラインナップを拡充して提供いたしました。宅配御膳「釜寅」においては、脂の乗った金目鯛を贅沢に使用した「金目鯛釜飯」を提供いたしました。また、7月には「釜寅」ブランドコンセプトの認知及び顧客満足の向上、利用促進を目的として、「厳選国産コシヒカリ」、「枕崎産かつおぶし」、「利尻昆布」の一番だしを使用した釜飯本来の美味しさを追求したメニュー改定を実施いたしました。また、一部店舗において、「うな重」等のお重メニューの提供を開始しております。

宅配寿司の第2ブランドである「すし上等!」においては、手巻き寿司や丼といったバラエティメニューを提供し、「銀のさら」との差別化を図るとともに、様々なお客様のニーズに応えることで、新たな顧客層の開拓を進めております。

販売戦略としましては、繁忙期であるゴールデンウィーク、お盆期間のテレビCMとして、素材の活きの良さを表現した「上司編」、「バレー編」の放映を実施いたしました。また、4月には「銀のさら」、「釜寅」、「すし上等!」のどのブランドでも利用可能な自社ポイントシステム(デリポイント)を全国の直営店舗にて先行導入いたしました。

WEBにおける販売促進においては、5月には「銀のさら」、「釜寅」、「すし上等!」、「ファインダイ」の公式宅配注文アプリの配信を開始し、利便性の向上、顧客接点の強化に努めております。6月には、一部店舗にてWEB限定商品の提供を開始する等、WEB会員、顧客に向けた販売促進及び認知度向上のための施策を実施いたしました。

既存顧客に向けては、顧客属性にあわせた計画的なDMの実施、メールマガジンの配信、LINE公式アカウントからの情報発信、公式アプリからのプッシュ通知等、CRM(※)の確立に向けた活動を行うとともに、WEBからの注文促進に向けたDMを実施しております。

※Customer Relationship Managementの略。顧客接点での情報を統合管理し、顧客との長期的な関係性を構築、製品・サービスの継続的な利用を促すことで収益の拡大を図るマーケティング手法。

宅配寿司「銀のさら」においては、テイクアウト併設型店舗の検証を実施しております。従来のデリバリーでの注文に加え、テイクアウトでの需要に応えることで、利便性の向上と新たな顧客層の開拓を進めてまいります。

提携レストランの宅配代行サービス「ファインダイ」においては、「ファインダイ」と他の自社ブランドとの複合化による更なる生産性の向上を目指し、受注対応、調理対応、配送におけるシステム、オペレーションの構築を行っております。9月には新規顧客の獲得及びリピート利用の促進等を目的として、会員の顧客及びご紹介頂いた新規顧客にご利用いただける「お友達紹介クーポン」、「サンキュークーポン」機能をリリースいたしました。提携レストランの開拓においては、人気の高い町の有名レストランの開拓に加え、ステーキ専門店「いきなり!ステーキ」を運営する株式会社ペッパーフードサービス(本社:東京都墨田区、代表取締役社長CEO 一瀬邦夫)等、全国で人気ブランドを展開している企業とのデリバリー業務提携を進めております。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

資産は、前連結会計年度末に比べて911百万円減少し、9,143百万円(前連結会計年度末残高10,055百万円)となりました。これは主として、現金及び預金が874百万円減少したことによるものであります。

(負債)

負債は、前連結会計年度末に比べて682百万円減少し、4,312百万円(前連結会計年度末残高4,994百万円)となりました。これは主として、季節的な変動に伴い買掛金が20百万円、未払金が357百万円、長期借入金が53百万円、法人税等を納付した事により未払法人税等が109百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べて229百万円減少し、4,831百万円(前連結会計年度末残高5,060百万円)となりました。これは主として、親会社株主に帰属する四半期純利益228百万円を計上した一方で、自己株式取得により自己株式が200百万円増加、その他有価証券評価差額金が162百万円、配当金105百万円の実施により減少したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は前連結会計年度末より874百万円減少し、3,139百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、219百万円の支出(前年同四半期は27百万円の収入)となりました。主な内訳は、税金等調整前四半期純利益375百万円、非資金項目である減価償却費118百万円を計上した一方で、未払金310百万円、未払消費税等174百万円の減少、法人税等の支払額243百万円が生じたことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、346百万円の支出(前年同四半期は1,083百万円の支出)となりました。主な内訳は、投資有価証券の売却による収入148百万円が発生した一方で、投資有価証券の取得による支出233百万円、有形固定資産の取得による支出166百万円、無形固定資産の取得による支出90百万円が生じたことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、312百万円の支出(前年同四半期は160百万円の支出)となりました。主な内訳は、長期借入れによる収入200百万円があった一方で、自己株式の取得による支出200百万円、配当金の支払いによる支出105百万円、長期借入金の返済による支出217百万円が生じたことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間におきましては、WEBからの注文比率向上に向けた販売促進の強化、顧客接点の強化・利便性の向上に向けたシステム投資を実施した事等により前年同四半期と比べ販売費及び一般管理費は増加いたしました。宅配寿司「銀のさら」の売上の好調等により売上高は増加しており、営業利益は前年同四半期と比べ増加いたしました。このような状況を鑑み、2019年3月期の業績予想につきましては、2018年5月15日に公表いたしました業績予想から変更はございません。

また、業績予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,013,997	3,139,128
売掛金	1,053,385	1,023,025
有価証券	1,000,000	1,000,000
商品	35,263	42,364
原材料及び貯蔵品	261,633	317,706
その他	374,032	235,448
貸倒引当金	△20,438	△20,628
流動資産合計	6,717,874	5,737,045
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	417,649	448,188
その他(純額)	152,136	175,981
有形固定資産合計	569,786	624,170
無形固定資産		
	421,790	416,776
投資その他の資産		
投資有価証券	1,501,211	1,457,456
繰延税金資産	169,684	230,383
差入保証金	619,045	618,251
その他	149,962	151,655
貸倒引当金	△94,041	△91,975
投資その他の資産合計	2,345,862	2,365,771
固定資産合計	3,337,440	3,406,718
資産合計	10,055,315	9,143,764
負債の部		
流動負債		
買掛金	972,569	952,424
1年内返済予定の長期借入金	406,360	442,330
未払金	879,548	521,620
未払法人税等	290,252	180,837
ポイント引当金	—	32,727
株主優待引当金	67,695	35,127
その他	347,057	161,329
流動負債合計	2,963,482	2,326,397
固定負債		
長期借入金	1,549,799	1,496,269
資産除去債務	141,444	155,620
その他	339,769	334,120
固定負債合計	2,031,012	1,986,009
負債合計	4,994,495	4,312,407
純資産の部		
株主資本		
資本金	971,381	976,451
資本剰余金	875,001	880,071
利益剰余金	2,967,626	3,090,822
自己株式	△103	△200,150
株主資本合計	4,813,906	4,747,194
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	244,578	82,130
その他の包括利益累計額合計	244,578	82,130
非支配株主持分	2,335	2,031
純資産合計	5,060,820	4,831,357
負債純資産合計	10,055,315	9,143,764

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)
売上高	8,536,665	9,416,432
売上原価	4,402,956	4,749,426
売上総利益	4,133,709	4,667,006
販売費及び一般管理費	3,839,726	4,356,969
営業利益	293,982	310,036
営業外収益		
受取利息	1,382	1,514
投資有価証券売却益	61,223	107,729
固定資産売却益	27	29
業務受託料	1,641	1,666
その他	1,350	8,661
営業外収益合計	65,625	119,602
営業外費用		
加盟店舗買取損	69,422	41,623
その他	6,606	11,433
営業外費用合計	76,028	53,057
経常利益	283,579	376,581
特別利益		
固定資産売却益	7,603	—
受取保険金	2,551	3,841
特別利益合計	10,155	3,841
特別損失		
固定資産除売却損	5,922	—
リース解約損	2,340	4,932
その他	396	—
特別損失合計	8,659	4,932
税金等調整前四半期純利益	285,075	375,490
法人税等	120,688	146,973
四半期純利益	164,386	228,517
非支配株主に帰属する四半期純利益	68	93
親会社株主に帰属する四半期純利益	164,317	228,423

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)
四半期純利益	164,386	228,517
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	257,218	△162,532
その他の包括利益合計	257,218	△162,532
四半期包括利益	421,605	65,984
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	421,279	65,975
非支配株主に係る四半期包括利益	325	8

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	285,075	375,490
減価償却費	104,066	118,401
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△2,472	△1,875
株主優待引当金の増減額(△は減少)	△29,518	△32,567
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△1,200	32,727
受取利息	△1,380	△1,512
支払利息	432	2,296
投資有価証券売却損益(△は益)	△61,223	△107,729
固定資産売却益	△7,630	△29
固定資産除売却損	9,387	5,810
加盟店舗買取損	69,422	41,623
売上債権の増減額(△は増加)	51,145	30,360
たな卸資産の増減額(△は増加)	23,007	△63,174
未収入金の増減額(△は増加)	△5,777	139,812
仕入債務の増減額(△は減少)	△79,692	△20,145
未払金の増減額(△は減少)	△201,950	△310,774
預り保証金の増減額(△は減少)	3,189	△5,648
未払消費税等の増減額(△は減少)	28,785	△174,644
前受金の増減額(△は減少)	△8,349	3,833
その他	1,447	△7,374
小計	176,760	24,878
利息の受取額	926	1,962
利息の支払額	△519	△2,280
法人税等の支払額	△150,323	△243,596
法人税等の還付額	386	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	27,229	△219,036
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△200,000	—
有形固定資産の取得による支出	△141,409	△166,516
有形固定資産の売却による収入	17,957	77
無形固定資産の取得による支出	△37,306	△90,109
投資有価証券の取得による支出	△701,828	△233,745
投資有価証券の売却による収入	—	148,364
貸付けによる支出	△720	△2,500
貸付金の回収による収入	961	2,212
敷金及び保証金の支払額	△10,527	△8,525
敷金及び保証金の回収額	6,352	9,318
長期前払費用の取得による支出	△2,910	△2,266
その他	△14,018	△2,872
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,083,448	△346,561
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△58,290	△217,560
株式の発行による収入	1,839	10,140
配当金の支払額	△104,073	△105,151
長期借入れによる収入	—	200,000
自己株式の取得による支出	—	△200,047
財務活動によるキャッシュ・フロー	△160,523	△312,618
現金及び現金同等物に係る換算差額	489	3,347
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,216,253	△874,869
現金及び現金同等物の期首残高	2,836,557	4,013,997
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,620,304	3,139,128

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業的前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

当社グループは、宅配事業のみの単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。